平成３１年に特に注意を要する病害虫

りんごの黒星病

黒星病（葉の病斑）

黒星病（果実の病斑）

近年りんごの黒星病が多発傾向です。
春季の**一次伝染源も多い**と推測されますので、初期の**防除時期を逸しないように**気をつけましょう。
薬剤防除においては、散布間隔の開きすぎに注意し、**希釈濃度、散布水量を守って適切な防除を実施**しましょう。
また、特定系統の薬剤のみに頼らず、複数系統の薬剤を用いたローテーション散布を心がけましょう。

りんごの腐らん病

腐らん病（左：胴ふらん　右：枝腐らん）

腐らん病対策では、**樹勢を維持**するための基本管理が最も重要です。
H30年には、**台風等で樹体が損傷**を受けていると推測されることから、一層の注意が必要です。
腐らん病にり病した部位は年間を通して伝染源となります。
早期発見に努め、**り病部を削り取り園外で処分する**といった基本対策を確実に実施しましょう。

新たに発生が確認された病害虫

トルコギキョウのべと病（新称・国内新発生）

株が黄化し、葉に灰色のかびが密生します。
葉の奇形や茎の曲がりも生じます。

たまねぎの黒腐菌核病（道内新発生）

生育不良や立ち枯れ症状を起こし、鱗茎部に黒色の菌核ができます。
低温で発病しやすい病害です。

カーランツのブドウワタカイガラムシ（道内新発生）

白い綿状の卵のうを伴うカイガラムシです。
バラ科果樹やブドウでも発生するため、注意が必要です。

小麦のなまぐさ黒穂病（病原の追加）

近年、北海道で発生しているなまぐさ黒穂病菌は、これまで小麦で報告のなかった、*Tilletia controversa*であることがわかりました。
この菌は土壌伝染することが知られています。

てんさいの黄化病（病名の変更・病原の変更）

近年、北海道で発生していた西部萎黄病の病原ウイルスは、過去に報告されていたウイルスとは異なることがわかりました。
新たな病名としてテンサイ黄化病、
病原ウイルス名としてBeet leaf yellowing virus
（ビート黄葉ウイルス）が提案されました。

平成30年度にはこの他に７病害虫の発生が報告されています。

注意を要する病害虫の詳細は、北海道病害虫防除所のホームページでご確認ください

連絡先 Contact
中央農業試験場
病虫部 予察診断グループ
０１２３－８９－２００１
Central-agri@hro.or.jp